



理系のための会社訪問

# @Twitter



川本 健太郎 @imsuten

東京大学大学院 理学系研究科 情報科学専攻 修士課程修了。スタートアップ企業でウェブサービスの立ち上げに携わったのち、外資系投資銀行の社内SEを経てTwitterに入社。レベニューエンジニアリングチームでバックエンドを担当。



蓑輪 太郎 @higepon

慶應義塾大学 理工学部卒。株式会社はてな、サイボウズ・ラボ株式会社などを経て、現在はTwitterのインターナショナルエンジニアリングチームに所属。Twitterのフロントエンドに携わる。



私たちの生活にもっとも深く浸透しているWEBサービスのひとつ「Twitter」。2006年にアメリカで生まれ、いま世界各地で受け入れられているサービスへと成長しましたが、同社がアメリカ以外で初めて拠点を設立したのは、実は日本だったというのはご存知でしょうか。日本からTwitterを支えているのはどんなエンジニアなのか、Twitter Japanはどんなオフィスなのか、訪問してインタビューしてきました！

鳥小屋をモチーフにしたエントランスや社内のおちこちにTwitterバードがいるなど、ユニークなオフィスですね。早速ですが、Twitter Japanのミッションはローカライズ業務がメインになるのですか？

川本：いえ、Twitterはサンフランシスコ本社、ロンドン、東京、ニューヨークなどに拠点があるのですが、必要に応じて拠点を越えたチームを結成し、プロジェクトを進めます。現在、私はサンフランシスコのメンバーとともに全世界のユーザーに向けたサービスを担当しています。

お二人が手掛けているサービスについて詳しく聞かせてください。

川本：私が担当しているプロモーション製品のシステムは企業からのオーダーを受けてTwitterユーザーに広告を表示するサービスです。

どのユーザーに、いつ、どんな内容の広告を表示すればより効果が高まるのか、常にトラッキングしてアルゴリズムを検証していくことが求められます。ユーザーの反応（クリック率）はリアルタイムで見えるので、ダイレクトな反響を得られるのがこの仕事の魅力です。

蓑輪：私のミッションは全世界のユーザーがより快適にTwitterを使うよう、様々な機能を追加、改善していくことです。いま手掛けているのは、9月にリリースされた「ライブラインアカウント検索」。これは災害時に緊急情報などを発信する政府や自治体、公共サービス事業者などの公式アカウントを簡単に検索できるサービスです。

ライブラインアカウント検索はネット上で話題になっていましたね。

蓑輪：そもそもこのサービスを作るきっかけとなったのは、2011年3月の東日本大震災でした。当時、ユーザーの皆さんに情報の拡散ツールとしてTwitterを利用いただき、「緊急時にもっと活用できるように利便性を高められないか」という議論が日本拠点でも起きました。それがきっかけとなり、サンフランシスコとロンドンのメンバーとともにこのプロジェクトがスタートしました。まだまだ改善の余地は大きいですし、現状は日本のみへのサービス提供なので世界リリースに向けた準備も進行中です。万が一の際に、このサービスで一人でも多くの命を救うことができればと願っています。

社内コンテストでユニークなサービスを作成したと伺いました。

蓑輪：当社では3カ月に一度、社員が日常業務から離れて「みんなの役に立つものを作る」のがテーマの「バックウィーク」というコンテストがあります。そこで、私と川本で操作が複雑だった社内の空調管理システムを、Twitterにツイートするだけで温度調整ができる「空調さん」というサービスを作りました。これは空調さんのアカウントに対して「部屋の名前」が#暑い」とつぶやけば、従来の空調システムと連動して温度調整してくれるというもの。温度がすでに適切であれば「もう十分涼しいはずなんだけど…」と人間味あるつぶやきを返してくれる点なども好評で、社内で絶賛されました(笑)。



自由度の高さが伝わるエピソードですね。  
会社風土で特徴的な点はありますか？

川本：仕事における個人の裁量が大きい点です。上からミッションは降りてきますが、ゴールまでのプロセスはお任せなので自分の頭で考えて実行していくことが求められます。

養輪：自主性が求められるのは確かですね。以前の会社では、わからないことがあると「それはAさんが詳しいからお願いましたら」と言われましたが、当社では「Aさんにやり方を教わってきたら」と言われます。わからないことがあれば、自分で習得してできるようになる、さらには自分が周囲に教えられるようになるというスタンスが浸透しているのが印象的でしたね。

また、業務スタイルの自由度も高く、自宅勤務も可能です。チーム内で時差があることも少なくないので、勤務についての柔軟性は高いですね。ただ、会社で朝食が出るのでそれを目当てに出社する社員も少なくないです(笑)。季節のフルーツなどが充実しているので私もつい出社してしまいます(笑)。

川本：あとはコミュニケーションが非常にオープン。Twitter

やメール上で誰かの昇進やサービスのリリースといったニュースがあると世界中から賞賛のショートコメントが届く。その中にCEOが混ざっていたりするフラット感もいいですね。このオープンな風土は心地いいですよ。

エンジニアとしてTwitterで働く魅力はどんなところにありますか？

川本：テクノロジーについてもオープンな点です。

Twitter自体もオープンソースプロダクトを提供しているということもありますが、自社でもオープンソーステクノロジーを取り入れることが多い。エンジニアの悩みとして、「社内内の特殊なテクノロジーについてスキルを高めても、社外での評価は高まらない」という話をよく聞きますが、オープンソースのテクノロジーに関するスキルは社内外で広く通用するので、エンジニアとしての市場価値は高まります。別に転職したいわけではないのですが(笑)。

養輪：私が魅力に感じているのは、非常に多くのユーザーに使われているサービスだからこそ見える世界があるという点ですね。数億人規模のユーザーがいるからこそ、求められるテクノロジーがあります。通常であれば先端テクノロジーは本などを読んで勉強しますが、Twitterなら当社発のテクノロジーで世の中に広がっていくような経験ができる。まさに、「最先端」の経験ができるのです。

Twitter社で活躍しているエンジニアにはどんなことが求められるのでしょうか？

川本：技術力はもちろんですが、自分の考えを相手に

伝えるスキルも大切だと思います。とにかく議論が多く、社内ネットワークにドキュメントを上げると一気にコメントが寄せられる。そこで自分の意図などをしっかり伝え、建設的な意見交換をできることは大切です。

養輪：私が大切だと考えているのは、根っからプログラムが好きで、先端的なテクノロジーにキャッチアップして学び続けられることでしょうか。プログラムが好きで「家に帰ってもプログラムを組んでる」「みたいな人が多いかもしれません。私も仕事とは無関係ですが、オープンソース活動でOSを作っています。

あとは、前に進む力。サービスリリースまでには様々な障害が常に立ちまわります。自分が何をすべきかを理解し、くじけずに前進できることが大切です。

最後にTwitterユーザーに向けてメッセージをお願いします。

養輪：Twitterの使用方法は千差万別で、友人との雑談、芸能人の情報収集から災害時の情報共有まで多様な使い方ができるサービス。自分に合った使い方、長く付き合ってもらえたら嬉しいですね。

川本：ほかのSNSと比較して、Twitterの特徴は知らない人のメッセージを読む機会が多いということ。自分とは異なる意見に対して反感を覚えるかもしれない。でも心地良くない経験から得られるものもあると思います。Twitterが自分の世界を広げるきっかけになればと思います。

